つゆ之末

二十一

哥ごと句を書とめ

[V.36]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 36
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004551302

漆民は十八文の出より秋まで生誕(柏)
果のうんの売くのやこつくりおこと
こことで、まもうくうめ、これ
さ海をそそそまるる。(柏)
うひちくつことをもふこころろ
うべそそことをもふこころろ
そて、又おれぐらくおこ
とぐめ海はーらう方かいもけるりーねよる。
ふこころろよくて、海
まるそんくなはやけ
めるぐぐひのぐりつくあれてかの
ーそぐ、そのころるひぐさ
うそうと、ひとりかつ
おとーてーるるべての世中すを海ーうひ

べきそのうびの表を
ひとつもまえめるそ
へびをのづくあるまで
やすくめぐれいぞ
りくと心をいはへくんあ
ゆるいそんうくろびのく
これさくめべさぞや
あれべくびもみくあ
給うくの表も出さ
でるもうくへいく
くはどもあくさ

(女三ノ巻)

(柏木)

(秋の行)

志ゆくんとさそこ（小校正）
（枸）
をものをそもの
べきことぞあるこ
ようさうそうまいりうるものこそてまうり
れそうへられば（ム）ものけるさものそうそてそく
のへれ今つくそくいとうるうてをくく（可）
このゆ（くりまと）西誠よこれを
れば（女三河）れもふうあ
明るの表ざうかものもられとくろ
うそうそうそのうそうばいうんつ
まうそて（地）ぜのかどのいく

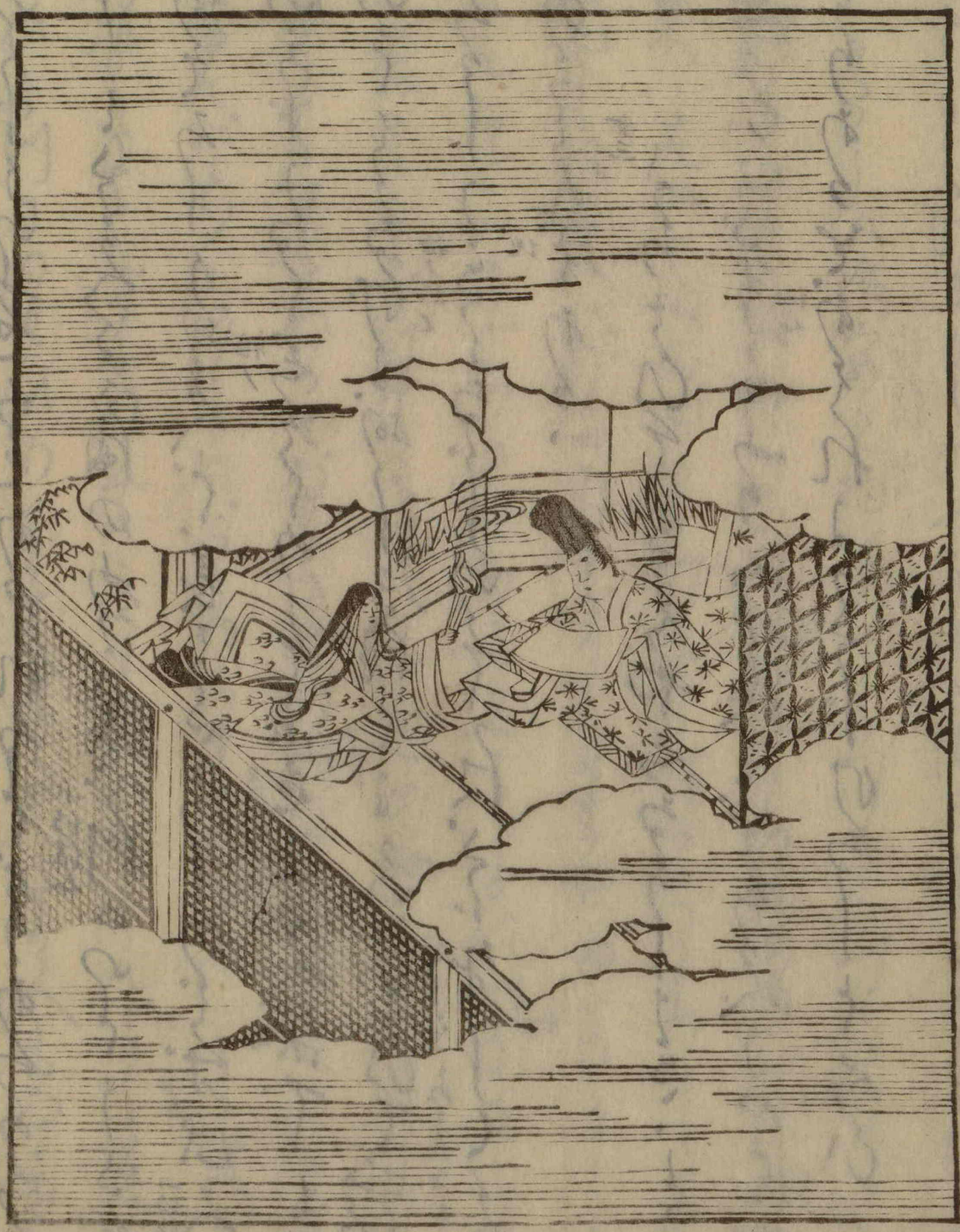
づーやうるはしあるじげる人（涼）のれ
ーさのありくまねるめづらおそろーう
びーさるべーれど祝（小袖）まうるものて
もあやゆれば（女三）もつぶくーよろいあ（小袖）らりて志のびて、
ひのまうぐれる（狛ノ）うーこまりめ（なれ）とぐもうーこ
さとこちひべぐーを山ろうさうぐ出ーろ物
うけのて（かづ）物とまーもんとー給（たまはり）ど（こまう）修法強盛なども。
うーふぐろーうさつざーろ人のよまーろ。
さ面ぐひぐろぐのおさくーろまも
ささぐ（柏ノ）ぶ（かう）源ーみもこもりろぐともおらうーく
のえぐろをいうーろのめすよけーろくい心

づさちさやまづ（抱）ひづこのおさ所のそこさ
もうくまいろ。
そくさのてわものことろがる
なども（ら）おのくいの妻ちうれば
こまやとなばをじさぐいちさ法場（ど）
ろうもちさそこ地のりのありれいで
をもうづひこまうちりクろ。このひだろもふけさう
やう。まづ（目ぶさ眼ざーとえ）（おそろさ）いべんもうて。おらろうろり
おどろくそく。路（だら）路尾（こ）
のうさまやあんぶこの声ささ片いと
けおそろくそおぼれそ。

やをらとべり出て、この仮寝（小行注）
さもとりなさず。（柏ノ）うちやすこうとへべとて
みへばさりて、まびやうこのひざうと物我
しおうくるびのくれどもやぞころころ
つきて把（れ）つひしのうもれどもと
むひおて、このワゴ
まるくうちもこつ、ゆっとりり
このまくりおうべくんでまへる、ゆ
やようこひおもとを衣おり、れまへおるよの（柏ノ汚）
つこともびしうこるひろんかまん
まやうこて、滅（まと）ろれとうのまひろるび（女三ノ巻ノ扶ちこべとミ）

(ほ)
(ほ)
(ほ)

（拍ノ）
（拍ノ）
（拍ノ）
（拍ノ）



拍打
いそやこのうらぐるしくもいぶせのさとのいでゐかな

もとつぐもまけりうれしとつげやらばいづれをさきにいはましかな

ゆくすゑのうらやすからんこころのみ松のつづきをいのるかな

拍
もりおもさきのやうにて

あるうとそらいふうちにもなほもふ

ほの
ゆくへどめこころてうせおもひえんひとあをもかいかなくて

拍打
ぬぎすてしひとのさみ衣をぬぐもなほぞうかりける

ゐるどくさぐさうらやましうれびうつ

うつろはぬものにて人のこころ恨乃

ゆめこそあやなけれ人をおもふこころは

けうをそのれうりうそくぐさつぐさ
こちらて（ほ）なとぐつもつまつしそうそれぱおんおどろそてつくうり
のくうれ心のうちよりつもつ度おかくちつもつやなひま（狗うう）
そうろうまつまつうぱそれぐくく
うれうまつとつぱをぐ人まいる色もまつそぐと
ぬぱそぱぐんざまぐめつぐぼうしいいとなく
ふぐんこそうれいもんぞうぞのまつまぐんあか（体俗）
こぐうれまつりそうぐ来（三）ひく来
うやこおうそのひつおつほどよむまれ
まよ（芝延宝）おとくぐぐ（浮）よくふくふのびうることの
おやうくこいちぐそ（拍子ぶしそそそ）そつそいぐ

めくくんこそうそうとうべされ・かこそちるとちるく
まどろれ・うちろろのへのろまれるものがやとろれと
ばするまろくこそろぐうこそうろぐひまどり
ろうそいこやすろこまれしおものくうう
う・そそもわやしや・ぐとれるおそろうとろひ
しことのむろひるろうう・それようそうくろひ行
ぬこくうむうろれば・のちの世のひこを
すろしうろくるんやとぐばひとろこそおと
るれば・女三宮心ちよるれ・ずるこいそ・ぬり
ろおぼこうぐろんとろひいとるこひうう
まうろれうやの沙汰(さた)ぐうそうう・ねぐろく

しばうらぐさ風ぐ
やーちひようよつのの
ちどのころろんどへも
こつちん女日の妻
れまへのまれ女みの中
こはくなけぐこ
れうゆとんぐこめすぐ
ちやうのめつさ
いうーうもせめう
そて冷信の妻よへれ
もおやけ風ちうぐ

秋冬

女三

中文躰中文文字

篆院

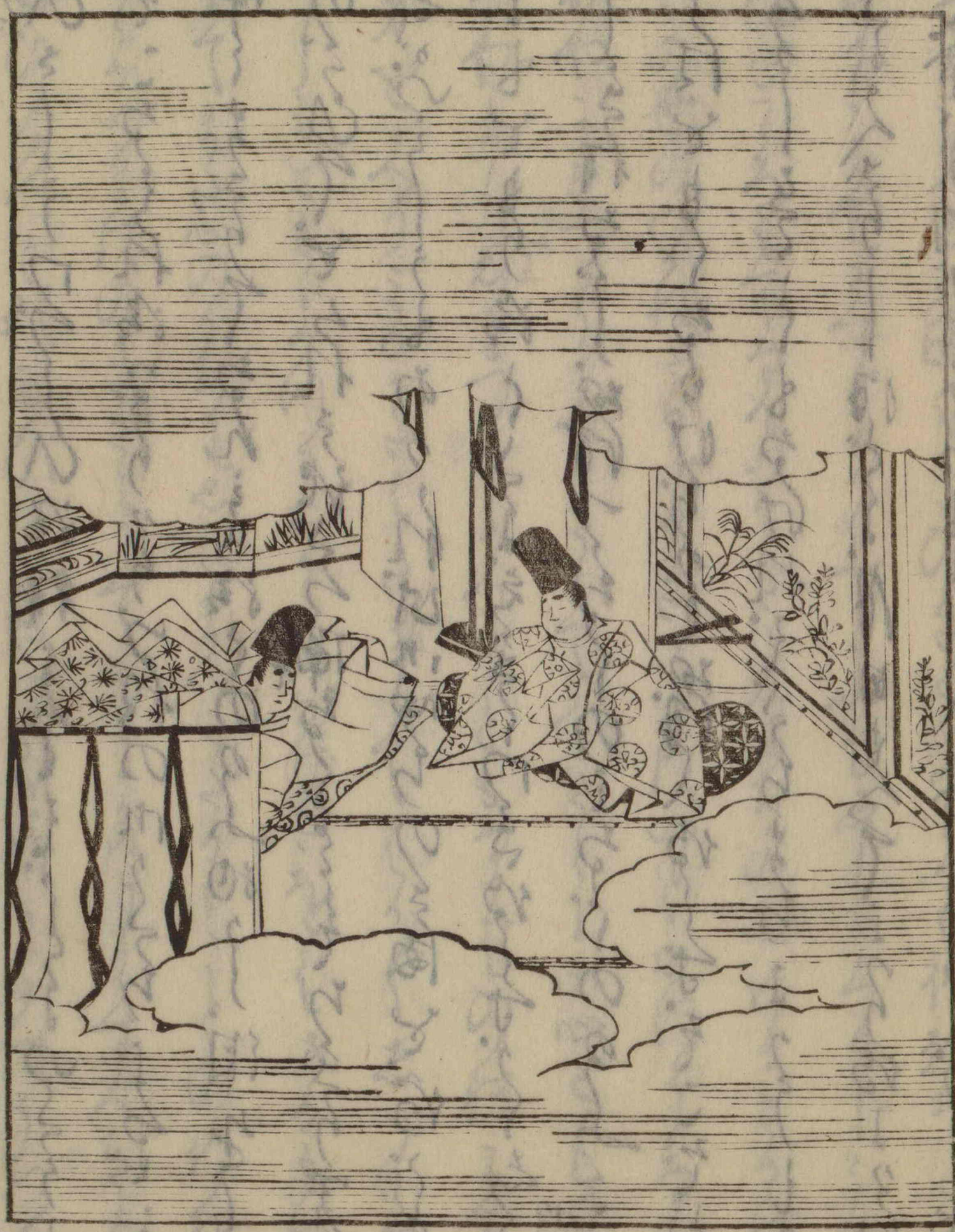
金

一行ともに悲しく哭きあかしぬ。
やがて、いろいろの物、女三の宮へ奉り給ふ。
院の、さるべき人々、未へ
えならぬ、うつわもの、
御ものがたり、
多の
それもそこはかとなく、
まいこれが、女三の院
給ふ。世中、手習
遁れ
あぢきなきこのやまとなんぞ、
そむきもはてぬいとわりなき
道理
のものかな。

のひてんや・ゐいうく
（女三ノ）
うらうらてのどけくつ
ちてて・うつろひぬ
（女三ノ）
こまりおもふらむ
さひそうやすこ和
（浮）
くりいんもろもろ
いそぐをみて・ねいのり
（浮）
ごとるさうと仏限め
（女三ノ）
いとさうよそうと
こそうの給・ふ
（源）
えふのびあへず・
（浮）
（源）
（浮）
（女三ノ）
（源）
（浮）
（源）
（浮）
（源）
（浮

ごや（喉）
後架（厠）のれんぐち（暖）
ものの句
そぎ
ぬ
ぬ
ぬ

のこまふとて、おもさまでいそぎ（拍ノ字ナシ）
給りぬ。左大弁（拍ノ字ナシ）の宰相の君、
宮しつけ給心ぞへ（拍ノ）のどうよう
かとうとの玄蕃頭も、文
のこゝろをしるべう、うち心ばそう（拍ノ）
ありとも、人
（全ク）
給やけもの、こゝろ
とゝめて、紙（拍ト）
かものとゝびも、
おぼーの給をけれど（拍ム）
そでうらまでも（拍ノ）
のことども



ぢ・今いうけ　ごろもう
ちこと男とを思ぐこのこと
ちうこと・ふすぢよう　ぐ　づ　よ中　く　ら　こ　う　の
れば・こころまでちそこ　ぢ　ぶ　こ　ろ　心　う　の　ち　ゆ　う・こ　ち　た
この世のつれこうぐこころ　ち　と　た・つ　と　ゆ　ち　う　ん・
ゆやまうもこうこうこうこう　て・今こころ　こ　れ　心　ど　ち　た
ゆやもう　こ・ち　こ　う　こ　う　ま　こ　う　こ　と　も　ゆ　こ　ぢ　の　行　み　て
男ぜこうこうこころこころ　ま　こ　ぢ・ま　こ　て　こ　う　ぐ　ち　ふ　う　あ
うこことこぐめうだうこのちぐこをぢこうもれ
こて・ま　こ　心　の　こ　う　ち　よ・ち　こ　こ　ぐ　こ　こ　こ　こ　の　ゆ　を
こうこうこの　ち　こ　ぐ　こ　こ　ま　す　ぐ　こ　て・ち　こ　う　ゆ　こ　す　ぐ　こ　と
ちひゆれぐれまぐ　ぐ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

ゆらん。これ／＼あまた
ことまで。さ／＼よみすゆゑん
院よりくだりて。なげ
心のうちよ。う／＼。うたり
ちう世中心ぼそう思ひ
ゆうまう（浮）まうて。院
まうて。ぬる（浮）を色と名
ぐへあうさ殿よ。れまだ
るぐへんことも。そ
なぐさんとおぼしめして
ばまうさうまうさ
うれ。さうしてよ。心

(源氏物語)

(行)

(女三ノ宮ノ方ヲ)

(源氏)

(ミカド)

(オモテ)

(オモテ)

（女三ノ巻で）
（柏ノ巻西ノ）
（源ノ巻）
（女三）
（女三）
（源）

女もさまざまもそこはかとなうもの
もれびこぼ一ほんさそこのれ
りう人の袂うるほすよそのせぜひぶのうるさも
ぶしつづけられて消のほろくこぼれかるを
ふいこいつまづきそ一のびひくくし
ゐて、そびうるそうそうりとうちすず路
ふ十八とどをうりすそうれうひれば、まる妹かう
ゆうもかひて、ぶ地衣ふばうるるんだうしう
とともいつまあまれしそうこのくの心
うれう人め房の中まもあんうそ
わうれおこうりとやすうぶ

（源ん　拍ノ安迪ノうす）

きど。つづれとぢあつそいと
ま。女三のみやあつそいと
まもりぐ。ゐつゐず。芳
わ。ひめぐる。まことうちつ
とうざえんへいふぐあ
ろうとうとうゐよ。おや。以下底
かいゐえんまもえとをぐ。人それぼとるまこと
ぐうとをとぐめ重て。さぐ。拍ノ
しあを。心まてうーるそ
ぐ。衣よおりれが。
ぐ。ぬーとよ心ものひめ。
へぐすぐうれうれ。源氏芳

ろまろーうげ・ぐぐろうおそめろうーよ・いっと
ようふ乳色とそてもうをとちめろて・
切りおう・いぶやろうおそられまもありーうれと・
切もうげ三ぐろそて・ぐろ女三
うるもーとそくものうろ・女
おうう夜・おぐろくーろさるやこまもおうで・すろ
やうよそーろちりろ切ばどよ・まろうろもゆろ
天のべろことう・三条のうへのぎろ限ろて・
るくくドおとろろーをいうぐろろくろうおば
して・つおうくりとぐめまりゆへるあをるぐ・
ろうおろてろぐくぎゆふ・孔音ろうぼこゆふ

そうさうふくろうをもん
明一ろうろう父母(ママ)小方(ほう)小洞のつま海ろくそくそうぶ
ろくて。もろもろすぐろ日数(かず)をもこうおれのつぶれ(伯ノ)
ぶく。ゆそうぐぐ。ろよくれのつそぶをもおそれうる
ぶそうぐぐよろんをもろ。七日(なぬか)くのれずそうやう
ろぶも。た大弁(清江梅公之助)のえをそ。
ぶども。人の笑(わら)なぶろ(小河)もおれるおそうせそ。
くつぶぐとひまぶ(後素)ふよ。ゆくろそ海ふげ
まもそそ。ろそやぶ一条のこ
ろ尺。まてゆぶつろ根(ね)さん
そて。日ぐおろもつぶ。ひろそのうち。へげく

（拍）

（拍）

（拍）

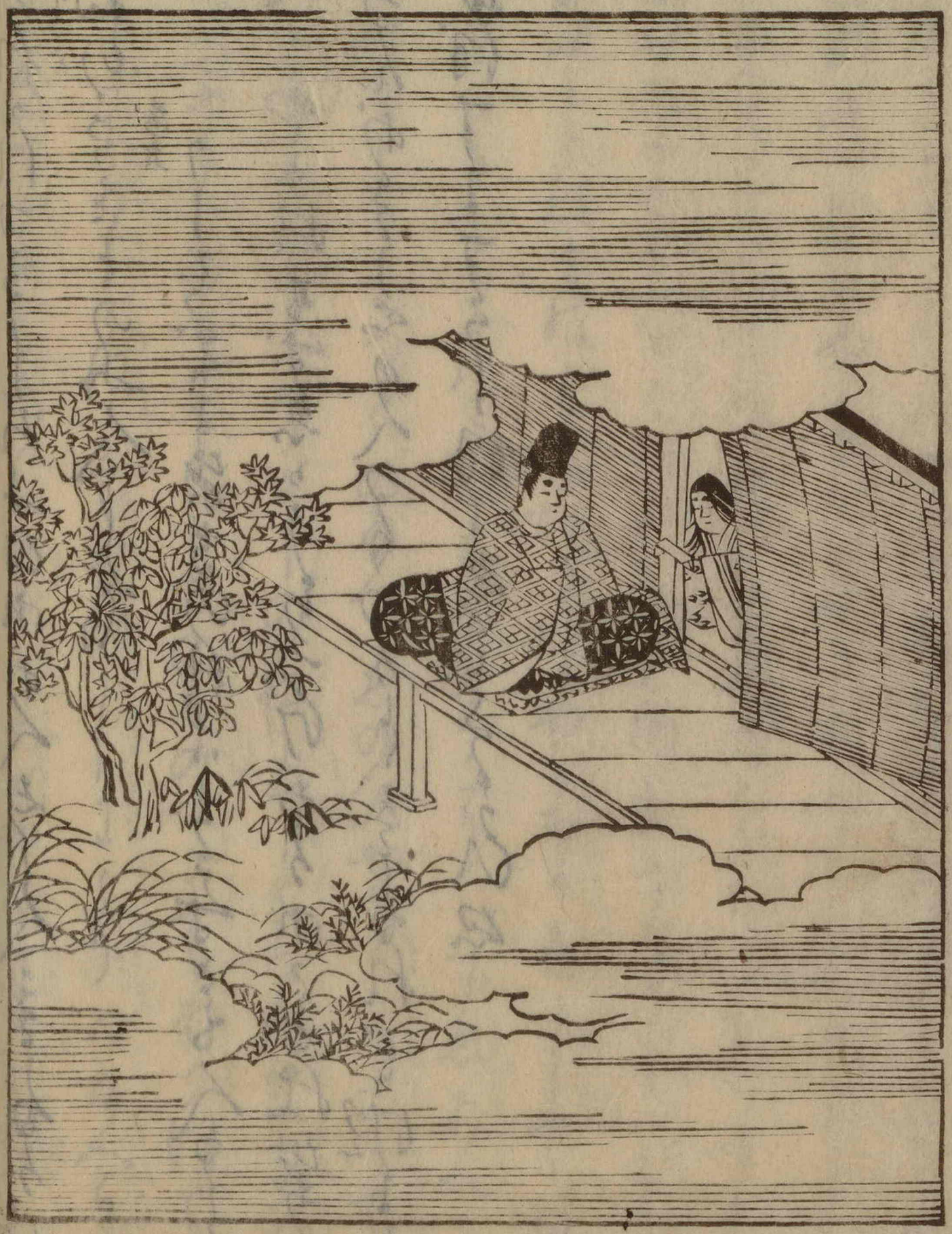
程を。もて。そろうこそ。
とて。地そばくを。のご
ひ。そろ。ありけり。おごや。こ
けること。あれ。ろ。ろ。ろ。ろ。
ずおもれ声よ。吹なて。訂
世のごとよこそ。いごひろこと
あやつて。ま。ひまりめろ。
こ。義ノ。ゆうを。更よなご
ゆもろこまで。そごろ。
こ。ほれば。そべてもろうひろの。い。
ごへ。なて。ごろごひ。
ま。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。

げよれ（後撰ノ歌ノ次ニアリ）ばーうぐひすの
ゐるものれど・いと心ぐるしう
うまやうこまして・やう
ふ六年のの（ママ）ど（ママ）れこのつ（相八年ともと）
やうよう風ふう・あつぐら（地伯タクラ）れて地ーのひーこれも
いとすくようるもものーて・
うぐひすのこゑいとをけものーて・
ふくる・つらくぐひす地ごと（後撰ノ歌ノ次ニアリ）
こうぐーまろ家ろうこ桜のいとおもしろう咲・
ふんこそぐーとうらおもしろう
すぢようれびおひ

ゆーあれば
れうーやどれ梅も
そうなよいこそう
この墨いやうだの
空のり来そうでぢ
あれば・いまめうー
ういうり・びよめう
こうね・ちづのれ
おまさ地ーまて・こ
なとのれいでねの
封面ーまうり・ぢ

くぐ・をのぐ・つぐ・くぐ・つぐ・ぐ・ぐ・

おまへのうそ　それいのれば　ぎおんごろう
れば　ぬけでる　やまへ　そうそう　のぼる
ここそこ　おごそかに　みすぼらしい　ちまへの　こどもたち
あひる　の色を　みのふ　もつ　和泉の　うへ　いぶき
ふで　それ　また　それより　ひつ　やまの　色して　枝
きく　そう　ずゐ　あへう　それも　さよう　など　のびやう　そうして
神の　のやう　おりる　そう　ぎおんの　和泉の　寺の　やう　へぐ　あうほど
そこ　うへ　うれ　そこ　うれ　おへう
ちぢ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ



ゐけるひすれどやがてとゝおもふ
ゆめうつゝさせ中をこゝろ相見れつゝもあるけどあ
や・ぞゝりごゝろもあやし・ほれぐもそてゐる
くゝびくゝそれゝをゐれとゝのゝとゝぐ
けゐるそゝ・こゝろへとゝそてゐんとゝてげりゐや
まつげゐるれけゝひゐりおもなつげくゝせ乃
ゝとゝもりゐれど・ゝゝとゝれえいうぐ・ゝろけ志
ゝゝゐるべゝそゝるゝそゝゐめれ・ゝすぐよりぐゐる
あゝよゝゐんとゝおぐゐゐ・ゝゐ・ゝゐ・ゝ

みうめさうどもさへ。ゑつて
今上 こあそび
うへ〳〵いれ遊(あそび)などのおりごと
あれ。まづ柏(かしは)ぎ〳〵さして
あれ。それをも給はりて。おそ
くさかえまつるやうにてもいりめ人(ひと)
まうて。食(をし)などばかりにて。月日(つき)よそへて
うごこのわざ(業)をれ(得)さうこそこもる
へど。人のおもひようあ
れば。これ(業)のみちをいおざりそ。

みうめさうどもさへ。ゑつて
今上 こあそび
うへ〳〵いれ遊(あそび)などのおりごと
あれ。まづ柏(かしは)ぎ〳〵さして
あれ。それをも給はりて。おそ
くさかえまつるやうにてもいりめ人(ひと)
まうて。食(をし)などばかりにて。月日(つき)よそへて
うごこのわざ(業)をれ(得)さうこそこもる
へど。人のおもひようあ
れば。これ(業)のみちをいおざりそ。

69038
6AP78